

社会福祉法人 風祭の森

令和7年度 事業実績報告

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

法人本部

1 理事会・評議員会等

(1) 評議員の状況（令和7年度末現在）

①評議員の氏名	②職 業	③評議員選任・解任委員会決議年月日	④任 期
柴田 和生	(福)県西福祉会 理事長	R 7. 6. 9	R 7. 6. 17～R 11. 6
高橋 政幸	(福)開成町社会福祉 協議会 事務局長	R 7. 6. 9	R 7. 6. 17～R 11. 6
堀内 勇	(福)児童養護施設 福音寮 理事	R 7. 6. 9	R 7. 6. 17～R 11. 6
牧野 賢一	(特非) U C H I 理事長	R 7. 6. 9	R 7. 6. 17～R 11. 6
高橋 直美	(特非)おだわら虹の 会 理事長	R 7. 6. 9	R 7. 6. 17～R 11. 6
町川 智康	まちかど法律事務所 弁護士	R 7. 6. 9	R 7. 6. 17～R 11. 6
永瀬 範子	おだわら看護専門学 校 副校長	R 7. 6. 9	R 7. 6. 17～R 11. 6

(2) 理事の状況（令和7年度末現在）

①理事の氏名	②理事の役職 ③常勤・非常勤の別 ④職業	⑤評議員会決議年月日	⑥任 期
石川 修	理事 常勤 風祭の森 理事長	R 7. 6. 17	R 7. 6. 17～R 9. 6
榊原 友二	理事 常勤 風祭の森 常務理事 風祭事業部長	R 7. 6. 17	R 7. 6. 17～R 9. 6
露木 康男	理事 非常勤 元小田原市社会福祉 協議会 常務理事	R 7. 6. 17	R 7. 6. 17～R 9. 6
寶川 雅子	理事 非常勤 鎌倉女子大学短期大 学部 教授	R 7. 6. 17	R 7. 6. 17～R 9. 6
北條 彰	理事 常勤 太陽の門福祉医療セ ンター 施設長	R 7. 6. 17	R 7. 6. 17～R 9. 6
森 恵	理事 常勤 元藤沢養護学校校長	R 7. 6. 17	R 7. 6. 17～R 9. 6

(3) 監事の状況（令和7年度末現在）

①監事の氏名	②職 業	③評議員会 決議年月日	④任 期
井上 宏一	社会福祉法人みその 法人本部前常務理事	R7.6.17	R7.6.17～R9.6
及川 利紀	帝京大学大学院教職 研究科 教授	R6.6.17	R7.6.17～R9.6

(4) 評議員選任・解任委員会委員の状況（令和7年度末現在）

①委員の氏名	②職 業	③理事会 決議年月日	④任 期
井上 宏一	社会福祉法人みその法 人本部 常務理事	R7.5.31	R7.6.17～R9.6
高橋 文明	社会福祉法人よるべ 会 理事	R7.5.31	R7.6.17～R9.6
熊澤 幸貴	(福)風祭の森 職員	R7.5.31	R7.6.17～R9.6

(1) 理事会開催状況

第116回理事会（令和7年5月31日6名全員出席）

- 議題：1 令和6年度事業実績報告
2 令和6年度決算報告
3 理事及び監事候補者の推薦について
4 評議員選任候補者の推薦について
5 評議員選任・解任委員会委員の選任について
6 社会福祉法人風祭の森 給与制度・人事評価制度等再構築事業プロポーザル方式による業者選定について
7 評議員選任・解任委員会の招集について
8 評議員会の招集について

報告事項：① 法人改革プロジェクトチーム提案事業の実施状況及び今後の取組みについて
② 職員からのハラスメント相談に対する対応について

第117回理事会（令和7年6月17日6名全員同意）

- 議題：1 理事長及び常務理事の選定について

第118回理事会（令和7年8月13日6名全員同意）

- 議題：1 社会福祉法人風祭の森 給与制度・人事評価制度等再構築事業委託業務の委託業者との契約締結について

第119回理事会（令和7年11月4日6名全員出席）

- 議題：1 令和7年度永年勤続表彰対象者職員の選定について
2 評議員会の招集について
報告事項：① 給与制度・人事評価制度等再構築事業業務委託契約締結及び取組状況について
② 障害福祉サービス支援記録システム及び電子カルテシステム等ITシステムに関する諸課題について

- ③ 南足柄市児童発達支援事業「くまさん教室」の今後の事業運営について
- ④ 令和7年10月1日付人事異動の実施について
- ⑤ 重症心身障害児（者）施設入所者の骨折事故について
- ⑥ 法人改革プロジェクトチーム提案事業の実施状況及び今後の取り組みについて
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症クラスター発生について
- ⑧ 理事長・常務理事の業務執行状況について

第120回理事会（令和7年12月10日6名全員同意）

- 議題：1 社会福祉法人風祭の森 常勤職員就業規則の一部改正について
- 2 社会福祉法人風祭の森 非常勤職員就業規則の一部改正について
- 3 社会福祉法人風祭の森 育児・介護休業等に関する規程の制定について
- 4 社会福祉法人風祭の森 登録ホームヘルパーの賃金に関する細則の一部改正について

第121回理事会（令和8年3月10日6名全員出席）

- 議題：1 令和7年度補正予算（案）について
- 2 令和8年度事業計画（案）について
- 3 令和8年度当初予算（案）について
- 4 南足柄市障害児通園施設「くまさん教室」（児童発達支援）の事業運営に係る南足柄市との協定書（案）について
- 5 社会福祉法人風祭の森 南足柄市障害児通園施設「くまさん教室」（児童発達支援）運営規程の一部改正について
- 6 評議員会の招集について
- 報告事項：①給与制度・人事評価制度等再構築事業業務委託の取組状況について
- ②事故・不祥事案件の発生及び対応について
- ③県指導監査結果について
- ④法人広報物に使用したイラスト（著作権物）への対応について
- ⑤医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業及び障害福祉従事者処遇改善緊急支援事業補助金に関する対応について

（2）評議員会開催状況

第84回評議員会（令和7年6月17日7名中6名出席）

- 議題：1 理事・監事の選任について
- 2 令和6年度計算書類及び財産目録の承認について
- 報告事項：① 令和6年度事業実績報告について
- ② 次期評議員について
- ③ 次期評議員選任・解任委員会委員について
- ④ 社会福祉法人風祭の森 給与制度・人事考課制度等再構築事業プロポーザル方式による業者選定について
- ⑤ 法人改革プロジェクトチーム提案事業の実施状況及び今後の取り組みについて
- ⑥ 職員からのハラスメント相談に対する対応について

第85回評議員会（令和7年11月26日7名中全員出席）

- 報告事項：① 令和7年度永年勤続表彰対象職員の選定について
- ② 給与制度・人事評価制度等再構築事業業務委託契約締結及び取

組状況について

- ③ 障害福祉サービス支援記録システム及び電子カルテシステム等 I T システムに関する諸課題について
- ④ 南足柄市障害児通園施設「くまさん教室」の今後の事業運営について
- ⑤ 令和 7 年 10 月 1 日付人事異動の実施について
- ⑥ 重症心身障害児（者）施設入所者の骨折事故について
- ⑦ 法人改革プロジェクトチーム提案事業の実施状況及び今後の取組みについて
- ⑧ 新型コロナウイルス感染症クラスター発生について
- ⑨ 理事長・常務理事の職務執行状況について

第 86 回評議員会（令和 8 年 3 月 23 日 5 名出席）

報告事項：① 令和 7 年度補正予算について

② 令和 8 年度事業計画について

③ 令和 8 年度当初予算について

④ 南足柄市障害児通園施設「くまさん教室」（児童発達支援）の事業運営に係る南足柄市との協定書（案）について

⑤ 社会福祉法人風祭の森 南足柄市障害児通園施設「くまさん教室」（児童発達支援）運営規程の一部改正について

⑥ 給与制度・人事評価制度等再構築事業業務委託の取組状況について

⑦ 事故・不祥事案件の発生及び対応について

⑧ 県指導監査結果について

⑨ 法人広報物に使用したイラスト（著作権物）への対応について

⑩ 医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業

（３）監事監査

令和 7 年 5 月 24 日実施

2 法人登記変更申請

（１）資産総額の変更登記（令和 7 年 6 月 27 日）

3 医療法第 25 条第 1 項の規定に基づく立入検査

（１）令和 7 年 8 月 18 日実施（小田原保健福祉事務所）

（２）令和 7 年 9 月 1 日付検査結果

4 神奈川県障害サービス課による指導監査

（１）令和 7 年 9 月 5 日実施（オンライン）

（２）令和 7 年 11 月 5 日付監査結果

・文書指摘事項 1 件

・口頭指摘事項 1 件

5 懲戒審査委員会

（１）令和 8 年 2 月 12 日

（２）審議案件

・重症心身障害児(者)施設敷地内における喫煙問題に関する懲戒処分について

・太陽の門デイサービスセンターの女性利用者に対しての問題行動に関する懲戒処分について

6 会議開催状況

(1) 経営会議

・開催 16回

・主な検討内容 法人の運営及び財務、並びに事業の基本方針等重要事項の審議

(2) 運営会議

・開催 12回

・主な検討内容 事業運営に関する調整・検討、各種情報の伝達等

事務部

1 人事・労務

(1) 入・退職

入職者 : 入所支援6名(うち派遣2名)・入所看護師5名・栄養管理1名・デイ看護師1名・デイ運転手3名・放デイ支援員2名・放デイ看護師3(うち派遣1名)名・放デイ運転手1名・ヘルパー1名・ひまわり運転手1名・相談員2名(計26名)

退職者 : 入所支援5名・入所看護師3名・デイ運転手1名・放デイ支援員1名・放デイ看護師3名・ヘルパー2名・くまさん2名・相談員2名(計19名)

(2) 職員配置状況 (令和8年3月31日現在)

・施設部	常勤45名	非常勤16名	嘱託4名	派遣2名	計67名
・風祭事業部	常勤17名	非常勤7名	嘱託1名	派遣2名	計25名
・地域支援センター	常勤11名	非常勤11名	嘱託・登録ヘルパー2名		計24名
・事務部	常勤6名	非常勤7名			計13名
・合計	常勤76名	非常勤41名	嘱託等7名	派遣4名	計128名

2 施設設備等の整備・保全

一般修繕など

浄化槽放流ポンプ交換工事	280,500円
厨房排気ファン部品交換工事	129,800円
ハイエース(No.1200)修理	214,082円
1階女子トイレ自動水栓交換	123,200円
3階居室エアコン修理	209,000円
8kgガスボンベ4本購入	110,000円
3階S側居室、通路系統エアコン修理	803,000円
スプリンクラーポンプ配管修理	286,000円
ランドリー洗濯機修理	181,000円
ハイエース(No.1200)バックドア交換	214,082円
3階N側居室系統エアコン修理	228,000円
貯湯槽補給水管修理	132,000円
ハイエース(No.9502)修理	154,400円
医用テレメーター送信機	105,600円
医用テレメーター修理	251,900円
ハイエース(No.8828)修理	173,030円
3階用機械浴槽修理	126,311円

その他

施設周辺草刈等環境整備
植木の剪定

495,000円

487,300円

3 防犯・防災

(1) 各種訓練

次のとおり防災訓練を実施しました。

日 時	部 署	訓練内容
4月 4日	診療課	火災に対する図上訓練
16日	放デイ	地震発生を想定した避難訓練
17日	デイ	地震発生を想定した避難訓練
28日	入所	火災発生を想定した避難訓練
28日	全体	消火器・消火栓を使用した消火訓練
5月 12日	診療課	水害に対する図上訓練
15日	放デイ	地震発生を想定した送迎対応
26日	入所	夜間の地震発生を想定した避難訓練
27日	デイ	火災発生を想定した避難訓練
6月 2日	診療課	地震に対する図上訓練
20日	デイ	地震発生を想定した送迎訓練
23日	くまさん教室	避難訓練（緊急連絡引き取り訓練）
27日	くまさん教室	避難訓練（緊急連絡引き取り訓練）
27日	放デイ	消火器・消火栓を使用した消火訓練
30日	くまさん教室	避難訓練（緊急連絡引き取り訓練）
30日	入所	防災備蓄品の確認
7月 7日	くまさん教室	火災発生を想定した避難訓練
8日	くまさん教室	火災発生を想定した避難訓練
28日	入所	消火器・消火栓を使用した消火訓練
30日	全体	総合防災訓練（消火・避難・通報）
8月 4日	診療課	消火器・消火栓を使用した消火訓練
20日	くまさん教室	不審者に対する防犯訓練（防犯）
27日	くまさん教室	不審者に対する防犯訓練（防犯）
28日	放デイ	地震発生を想定した避難訓練
30日	入所	地震発生に対する机上訓練
9月 1日	診療課	地震発生を想定した避難訓練
4日	放デイ	消火器・消火栓を使用した消火訓練
16日	くまさん教室	防災備蓄食料の確認
18日	くまさん教室	防災備蓄食料の確認
19日	くまさん教室	防災備蓄食料の確認
25日	デイ	火災発生を想定した避難訓練
29日	入所	大雨を想定した避難訓練
29日	全体	地震に対する机上訓練
10月 6日	診療課	地震発生を想定した避難訓練
6日	放デイ	土砂災害を想定した送迎訓練
14日	デイ	地震発生を想定した送迎訓練
17日	くまさん教室	地震発生を想定した避難訓練
20日	くまさん教室	地震発生を想定した避難訓練
27日	入所	地震発生を想定した避難訓練
11月 10日	全体	総合防災訓練（消火・避難・通報）
10日	診療課	土砂災害を想定した避難訓練

10日	放デイ	土砂災害を想定した避難訓練
10日	デイ	豪雨・土砂災害を想定した避難訓練
10日	入所	地震発生を想定した避難訓練
18日	くまさん教室	地震発生を想定した避難訓練
21日	くまさん教室	地震発生を想定した避難訓練
12月 1日	診療課	地震発生を想定した避難訓練
5日	くまさん教室	火災発生を想定した避難訓練
17日	放デイ	地震発生を想定した避難訓練
17日	くまさん教室	火災発生を想定した避難訓練
18日	デイ	地震発生を想定した避難訓練
22日	入所	地震発生を想定した避難訓練
1月 15日 ～ 1月 21日	全体	職員安否確認訓練
1月 5日	診療課	地震発生を想定した避難訓練
13日	デイ	豪雨・土砂災害を想定した避難訓練
23日	放デイ	土砂災害を想定した送迎訓練
25日	くまさん教室	避難訓練（緊急連絡引き取り訓練）
26日	くまさん教室	避難訓練（緊急連絡引き取り訓練）
26日	入所	防災訓練の総括と課題整理
28日	入所	消火器・消火栓を使用した消火訓練
30日	入所	消火器・消火栓を使用した消火訓練
2月 2日	診療課	消火器・消火栓を使用した消火訓練
19日	デイ	火災発生を想定した避難訓練
20日	くまさん教室	火災発生を想定した避難訓練
25日	くまさん教室	火災発生を想定した避難訓練
25日	全体	地震に対する机上訓練
25日	入所	夜間の地震発生を想定した避難訓練
27日	放デイ	消火器・消火栓を使用した消火訓練
3月 2日	診療課	防災備蓄品の確認
6日	くまさん教室	地震発生を想定した避難訓練
12日	くまさん教室	地震発生を想定した避難訓練
19日	デイ	地震発生を想定した送迎訓練
30日	入所	不審者等に対する防犯訓練（防犯）

4 節電対策

電力料金高騰により節電への取り組みの一環として、施設内の照明スイッチの横に節電への取組みに関する張り紙を掲示しました。

5 永年勤続表彰

対象者 7名（常勤6名、嘱託1名）

- ・11月4日 理事会承認
- ・11月7日 永年勤続表彰式

6 給与制度・人事評価制度等再構築事業

- ・令和7年8月15日 株式会社川原経営総合センター契約締結
- ・令和7年9月11日 第1回打合せ
- ・令和7年9月18日 第2回打合せ
- ・令和7年10月1日～10月15日 職員アンケート実施
- ・令和7年10月21日～11月13日 職員ヒアリング

- ・令和7年12月25日 第3回打合せ
- ・令和7年1月15日 第4回打合せ
- ・令和8年2月12日 第5回打合せ
- ・令和8年3月18日 第6回打合せ

7 法人内ITインフラ整備及び業務改善

- ・令和7年11月1日 株式会社川原経営総合センター契約締結
- ・令和7年11月19日 第1回打合せ
- ・令和7年12月23日～12月25日 職員ヒアリング
- ・令和8年2月5日 第2回打合せ

8 建物検査

建築基準法12条定期検査報告書提出

9 業務管理（洗濯・ごみ運搬処理・清掃業務）

- ・入居者衣類、タオル類の洗濯業務、ゴミの運搬処理業務をおこなっており、特に大きな問題はありませんでした。
- ・日常清掃業務を非常勤職員による直轄業務で実施することにより、施設内の衛生環境強化が図れています。

施設部

重症心身障害児（者）施設

生活支援課

1 利用者の在籍状況等について

(1) 療養介護 利用者 47 名（準超重心 7 名、その他 40 名）

利用者の方は、3 月 31 日現在 47 名の方が在籍。令和 7 年度は、6 月に 1 名、10 月に 1 名、計 2 名の方がご逝去され退所となっている。新たな利用者の方については入所調整会議を経て 1 名候補者が決まっているが、利用者本人の体調面の不安定さから 3 月 31 日現在入所に至っていない。短期利用等を利用しながら、体調面の様子をみて対応している。また、もう 1 床分については、職員の産休・育休、退職などが重なり、職員数の減少のため、新たな方が入所されても十分な支援が行えないと判断し、空床としている。今後、職員の補充状況をみながら入所調整を行う

また、定員 50 床中の 1 床は、1～数か月単位での利用となる中期利用者の方の利用を行っている。中期入所者の実人員は 2 名。これまで、緊急入所として中期枠を利用されていた方については、10 月に自宅を改装したグループホームへ移行となり退所している。

令和 7 年度は昨年度と比べ、特に上半期については中期利用も含め、安定した入所調整が行えたため、ベッド稼働率が 3%ほど高くなっている。

(2) 短期入所者 在宅重心児者のご家族のレスパイト等様々な理由で利用

実人員 27 名 利用延べ日数 522 日（前年延べ 535 日）

引き続き、感染症対策の観点より個室対応を中心に受け入れを行っている。昨年度同様、地域の感染状況を確認しながら 2 名の受け入れを実施している。今年度は、8 月～9 月にかけて新型コロナウイルス感染症の拡大、また、10 月～11 月にかけてインフルエンザの拡大があり、短期利用受け入れ中止となったこともあり、昨年度と比べベッド稼働率がやや下がっている。

新規利用者は 2 名となっている。

※令和 7 年度年度末「月別入退所利用者状況及びベッド稼働率」別資料【表 1～表 2】参照

2 利用者の健康管理について

※看護課部門を参照

3 リハビリ訓練の状況

※リハビリ部門を参照

4 利用者の生活支援について

(1) 支援体制

医師、生活支援員、看護師による日々の申し送りや連絡、必要時にはリハビリスタッフや栄養士など専門職を交えた検討を行い、福祉と医療が連携した総合的な支援を行っている。

入所では、ナースステーションを中心に利用者をN側、S側と大きく2チームに分けて日々の支援にあたっている。チーム体制をとることで、利用者の方からの排泄の訴えや、普段と顔色が違う等の体調の変化への気付きと言った細やかな支援の実施が出来るようにしている。それぞれのチームには、生活支援と看護スタッフが配置されている。生活面、医療面と利用者支援の役割と責任を明確にした支援体制により、スタッフの動きが機能的且つ、細かな介護・看護体制を維持している。また、互いに情報共有を行い、包括した支援の実施を行えるようにしている。

新型コロナウイルス感染症の流行以降、感染症対策の一環として利用者の方のN側・S側の交流は避けて日常の支援を行っている。職員はマスクを着用し支援にあたる等の基本的な感染症対策を実施しながら日々の支援へあたっている。

(2) 個別支援計画

利用者の誕生月と、その半年後に個別支援計画についての面談を実施している。面談実施前の月には担当者会議を実施し、各部署の担当者と利用者本人が参加して計画内容についての確認や実施状況などについて意見交換を行っている。また、利用者自身も担当者会議から参加していただく事で、自分の大切な話をしていることを感じていただく、又は意思の確認をする機会を設けている。

(3) 日中活動等

日中活動については、感染症の流行以降、基本的な感染対策をとりながら実施している。4月から11月は外出活動、12月から3月はインフルエンザ等の感染症対策期間として施設内活動を中心に行っている。

① 日中活動

入浴日（火・木・土）以外の午前と午後の時間に、月案を基に行う集団での活動、個別支援計画を基に行う個別活動を実施。

主な集団活動としては、行事に伴う製作活動、手遊び、歌遊び、光遊び、ハンモック、マッサージ（リラクゼーション・ストレッチ）、アロマテラピ

一、絵本、お洒落タイム、カラオケ大会、散歩などの活動を実施。

また、好みが合う利用者同士のクラブ活動も行っており、飲食サークル（シェフサークル、食いしん坊サークル）、粗大運動、光×リラクゼーション、音楽サークルを楽しむ活動も行っている。別紙資料【表4】参照

② 行事等

毎月の誕生会や、月ごとの行事（端午の節句、七夕祭り、かき氷大会、ハロウィン、クリスマス会、お正月遊びなど）の実施。特に、毎月の行事活動については、利用者が職員と一緒に制作活動や飾りつけを行い、行事活動当日までの間も楽しみをもって過ごせる工夫を行った。

③ 外出

外出活動では、ドライブ外出で近隣観光スポット（フラワーガーデン、小田原城址公園、大観山、一夜城など）への外出の実施、グループ活動や個別外出ではショッピングモールや水族館、公園などへの外出活動を実施、また、日ごろの活動として鈴廣への散歩を実施している。ショッピングモール等への外出活動については、お店の開店（10時ごろ）と同時に行くことで人混みを避け、感染症対策の工夫をしながら行っている。施設内活動では、12～14人ほどで行うグループ活動は4階テラスや4階休憩室前で実施、4～5人で行うサークル活動デイルームで実施など、活動内容によって場所と人数を工夫しながら実施をしている。引き続き、基本的な感染症対策を取りながら、利用者の皆さんに楽しんでいただける活動を行い、余暇活動の充実を図っていく。別紙資料【表5】参照

④ 家族室等を利用した小集団の活動

サークル活動として、光遊び、音楽サークルなどの3～5人の小集団での活動や、グループ活動でお茶会、個別活動でのフラワーアレンジなど小集団での活動を実施。少人数ならではの雰囲気の中、ゆったりとした雰囲気での余暇活動を実施。別紙資料【表5】参照

（4）ボランティア

間接的な地域ボランティアの方については、代表の方と感染状況などを確認しながら受入を実施。※別紙資料【表6】参照

秋祭り等の法人の大きなイベントでは、地域の方や学生の方などに、利用者の方の移動支援などのボランティアを実施。

（5）リスクマネジメント

事故・ヒヤリハット報告の提出の促進、分析と対応策の強化・徹底を行い

安心・安全な生活の確保に努めた。別紙資料【表 8】参照

今年度のヒヤリハットは 42 件と昨年度(62 件)に比べて件数は減少している。ベッド柵の上げ忘れが最も多く、次いで洗濯物への異物混入、遅薬となっており、業務の慌ただしさが原因の一つとして考えている。朝礼や夕礼にて声掛けをすることで職員が意識して取り組めるようにしている

事故報告については今年度 55 件と昨年度の 39 件よりも 1.5 倍ほど増加している。もっとも多い報告内容は抜薬が 14 件であり、錠剤が床などに落ちているところを発見した報告が多い。内服介助を行っている際の確認不足や、利用者の高齢化に伴い、錠剤の飲みにくさがあることが考えられる。錠剤については、医師へ確認し可能であれば散剤への変更や、内服を行う際に数口食事を食べてから内服を行うことで利用者が取り込みやすくするなどの工夫を行っている。骨折についての事故報告も 2 件あり、県、対象自治体、ご家族・後見人の方へ連絡を行った。報告を行った案件については、法人の対応として支援を行った職員への事実確認の実施し、後日ご家族への説明を行ったケースもある。利用者の変化については、引き続き、職員間での共有を行い、必要な対応を行っていく。

5 職員の資質の向上

職員の資質の向上を図るため研修を企画実施。集合型の研修や、Zoom などを利用した研修を実施。

□上半期の期間に企画・実施した研修

研 修 名	日 時	参加数	講師及び内容
摂食指導研修	4/11 12:15~15:30 5/9 12:15~15:30 6/13 12:15~15:30 7/11 12:15~15:30 8/8 12:15~15:30 計(延)	3名 3名 3名 3名 3名	神奈川歯科大学 歯科医師 赤坂 徹 氏 毎回利用者の中から 3 名の機能や問題点、適切な介助方法や食事形態について指導を受ける。 ※9 月は感染症拡大中であつたため中止。
トランスファー研修	8/8~	32 名	支援現場における腰痛対策 (動画視聴) 講師 リハビリテーション課職員
安全運転セミナー	9/10	4 名	事故防止の重要性 講師 三井住友海上火災保険株式会

			社 竹林あかね
--	--	--	---------

□外部機関研修受講

WOC ナースに学ぶ現場で生きるケアシリーズ	8/28	1 名	もう迷わない褥瘡ケアの基本と今 講師 日本医科大学千葉北総合病院 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 渡辺 光子
令和 7 年度全国重症心身障害児者施設職員研修会 (看護師コース)	9/11～9/12	1 名 (看護師)	重症心身障害児者看護の理解～看護過程を通して看護成果を得る 講師 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団 理事 米山 明 島田療育センター 療育局長・認定看護管理者 落合 三枝子 愛媛大学大学院 教育学研究科 教授 白松 賢

□下半期の期間に企画・実施した研修

研 修 名	日 時	参加数	講師及び内容
摂食指導研修	11/21 12:15～15:30	3 名	神奈川歯科大学 歯科医師 赤坂 徹 氏 毎回利用者の中から 3 名の機能や問題点、適切な介助方法や食事形態について指導を受ける。 ※10 月は感染症拡大中であつたため中止。2 月は講師の予定が合わず中止。
	12/5 12:15～15:30	3 名	
	1/9 12:15～15:30	3 名	
	3/6 12:15～15:30	3 名	
	計 (延) 9	27 名	
消火器訓練	11/10～3/31	45 名	有事の際の初期消火に関わる消火器の使用について 講師 防災対策委員

医療機器の電気安全（モニタ安全研修） 医療安全法定研修	11/19～12/17	50 名	モニタ使用上の注意、重大事故の要因について 講師 日本光電工業（株） 安全管理部
利用者骨折事故によるトランスファー研修	11/19～12/1	45 名	骨折をした利用者のトランスファー時の注意点 講師 リハビリテーション課職員
BLS	1/27～2/11	41 名	一時救命処置について（動画視聴） 講師 JLA ACADEMY
医療ガス	1/27～3/31	41 名	医療ガスの危険性について（動画視聴） 講師 一般社団法人 日本産業 医療ガス協会
医薬品安全管理研修	1/27～3/31	42 名	受傷心身障害児者施設における投薬管理 講師 薬剤師 石黒 優子
新型コロナウイルス感染症への対策について（感染対策法定研修）	1/31～3/31	35 名	施設内でのクラスターを受けての対策変更点について（動画視聴） 講師 施設長 北條 彰
ガウンテクニック 感染症対策法定研修	2/8～3/31	42 名	感染症対策時のガウンテクニックについて実技を行い学ぶ 講師 太陽の門福祉医療センター 感染委員 担当看護師
障害者虐待防止とあるべき本人との関りについて （権利擁護人権法	2/17～3/31	50 名	障害がある人との関り、支援者としての心構え、身体拘束の適正化、組織としての対応について

定研修)			講師 みなと横浜法律事務所 弁護士 内嶋 順一
------	--	--	----------------------------

□外部機関研修受講

令和 7 年度全国重症心身障害児者施設職員研修会(保育士・指導員コース)	12/18～12/19	1 名 (支援課)	重症心身障害児者の権利擁護～虐待防止と意思決定支援 ユニバーサルファッション 「ヨコへの発達」をまなざす ことで見えてくるもの テクノロジー×遊びによる重度障害児支援 グループ討議を参加者で発表 講師 東洋英和女学院大学 名誉教授 石渡 和実 神戸芸術工科大学 名誉教授 見寺 貞子 鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 准教授 垂髪 あかり 岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 講師 伊藤 史人
--------------------------------------	-------------	--------------	---

6 地域との交流

今年度は地元の神社の例大祭で神輿の巡航や、お盆に行われる地元の神社の盆踊りへの参加。

7 実習生・研修生の受け入れ

今年度は全体で4名の実習生の受け入れを実施。実習の受け入れ枠の確保はしていたものの、対象生徒の不在によりキャンセルとなるケースが4件あった。実習生受け入れについては、引き続き、次世代の専門職育成と実習指導することによる職員側のスキルアップ及び利用者支援への適切な支援に向けて再確認するために有意義なものとして取り組んでいく。

別紙資料【表7】参照

看護課

1 利用者の健康状態、および看護の提供について

(1) 日々の健康管理について

バイタルサイン測定、体重測定、血液・尿・脳波・レントゲン検査、日々の摂食状況、排泄状況などの情報、表情や活動状況など細かな全身の観察から異常の早期発見、早期対応を行うことで、全身の健康管理を行った。

(2) 通院について

小田原市立病院(循環器科、整形外科、小児科、消化器科、内分泌科、消化器内科)、丹羽病院、剣持整形外科、竹田整形外科、静岡てんかんセンター、聖マリアンナ病院(小児外科)、二次歯科へ延べ 38 名が専門医療の受診を受けた。その中でも 1 名は出生時より心臓疾患を持っており、その悪化により心不全にて逝去となった。また、1 名は同様に出生時より心臓疾患を持っており、呼吸不全により逝去となった。

日々の口腔ケアに加えて、歯科医の訪問によるクリーニング、歯石除去、齲歯治療を毎月 25～42 名、延べ 339 名の方が受診した。

(3) 感染対策について

・新型コロナ感染症対策

日々、一行為一手洗いの徹底、職員の毎日の検温、換気やマスクの着用などを行うことで感染予防に努めた。しかし、7 月に職員 4 名がコロナウィルス感染陽性となり、その後 8 月 14 日利用者よりコロナウィルス感染陽性が確認され、9 月 25 日の終息まで利用者 30 名、職員 7 名が罹患するクラスターが発生した。施設内ゾーニングの設定、PPE 着用、換気の徹底、感染対策強化、日々の活動・交流制限などを行うとともに、他部門、他施設との情報共有、ご家族との連絡、適宜朝の会や感染対策委員会を通して情報共有、注意喚起を行った。

コロナワクチン接種は、ご家族からの希望者のみで 3 月 20 日 12 名の方に実施した。副反応として発熱など見られた方もいらしたが、翌日には下がり、通常生活に戻ることができた。

・インフルエンザ感染対策

今年度、インフルエンザ罹患者は 10 月 30 日に 1 名いらしたが、感染拡大には至らず、その後の感染者も発生しなかった。予防対策の一環としてご家族からの希望者のみだが 11 月 17 日と 12 月 5 日に合計 46 名の利用者に、11 月 19～21 日かけて 35 名の職員に予防接種を行った。

・その他の感染症

尿路感染症やウィルスの確定されていない感染症罹患による発熱が 1～2 か月に 1～2 名程見られているが、水分調整や抗生物質の使用などにより数日で解熱が見られている。

面会は、クラスター発生中は中止となったが、家族からの電話対応、差し入れの受付などは随時行い、連携を保った。クラスター終了後は、まずは入所の階と別の階の部屋で面会をしていただく事で他との交流や蜜を避けたが、その後はその制限も解除し、施設内で面会をしていただいた。本年度は延べ601名、月平均50名の面会があった。

短期入所は、施設内の感染状況をお伝えし、クラスター発生中は受け入れ中止としたが、その後は3日間の個室対応は継続しているが、状況を見ながら受け入れている。3日間の個室対応中は、他との接触を避けられる状況で居室から出てデイルームや廊下などのスペースで過ごして頂くなど、日中の過ごし方を工夫した。

(4) 骨折について

今年度、発作を起点と考えられる上腕骨骨折をした利用者が1名、ケア中に手骨骨折が1名が受傷した。それぞれ発見後すぐに専門外来受診し、治療を受けたが、同時に職員でカンファレンスの実施、ヒアリングによる振り返りと原因を探り、再発防止に努めている。また、家族、後見人とも連絡を密にとり、情報共有を継続した。

(5) 看取りケア

今年度2名の利用者の看取りを行った。2名とも心臓疾患を持ち、徐々に全身状態の悪化を見た状況であった。受診やご家族との連絡、面談、職員とのケアや日々の過ごし方についての話し合い、などを支援や看護、リハビリのスタッフなど多職種で話し合い、日々のケアを行ない、ご家族に見守られる中、見送ることができた。

2 高い倫理観と専門的な知識・技術に支えられた看護について

(1) 看護課会議・カンファレンス

毎月行う看護課会議で日々の看護を振り返るとともに、個々の経験、知識を持ち寄り、個別性のある安全・安楽に配慮した看護について話し合い、日々の看護に反映させた。

① 検討内容

- ・薬品管理について(薬局との連携、未使用の薬剤の取り扱い、在庫管理について他)
- ・申し送り時間の短縮など情報共有について
- ・風祭事業部(デイ・放デイ)の人手不足について、応援体制とその方法など
- ・中期利用者のグループホームへの移行について
- ・電子カルテ上での連絡方法について(患者メモ・当日メモ・メモの扱い)
- ・腰痛対策について(リフトの導入やスライディングボードの使用についてなど)
- ・委員会からの検討

給食委員会：食品ロスについて・職員の試食について

感染・褥瘡委員会より：利用者のクッションの検討・感染マニュアルの見直し他

② 情報共有

- ・医療用患者モニターの故障、修理について
- ・各委員会からの報告・情報共有 など

(2) 研修

外部研修は、今年度は出張研修を3名が受講し、それぞれ研修後看護課会議などで情報共有を行った。他に職員全員対象の研修を10回行い、勤務上当日参加できない場合も、動画などで全員の職員が学ぶことができ、それぞれの内容を日々のケアに活かしている。

(3) ACPについて

指針の作成の他に、ACPについて情報を共有するとともに、今後の進め方について話し合いを行っている。今後進めるにあたり、研修などによる知識、情報の共有が必要である。

3 多職種と協働のもと利用者の生活の質の向上について

利用者への日々の関りや、活動、行事などについて、拡大主任会議や個別支援計画の担当者会議、グループミーティングなどで担当を中心に情報共有を行い、話し合い、日々のケアの中に反映させている。

4 医療安全管理の徹底と、サービスの向上について

日々の看護、関りの中でヒヤリハット、事故が発生したらすぐに報告、記録を行うとともに、その日のうちにカンファレンスを通して、振り返り、原因や対策について話し合いを行っている。事故など内容によっては関係者へのヒアリングを行い、原因究明、分析、対策の話し合い、評価を行い、その後のケアに活かすように情報発信、看護の提供につなげている。また、事故発生後、必要時関係機関やご家族へ連絡し、カンファレンスの内容や対策、対応を伝え、継続した信頼を得られることにも努力している。

今年度は吸入薬の間違いや落薬など薬に関する事故、ベッド柵の上げ忘れ、トランス時の職員の転倒、体重測定中の転落などいずれも大きな健康被害に陥るまでにはなかったものの一步間違えれば大きな事故につながりかねない事故の発生もあった。職員の積み重なる疲労なども一つの原因と考えられ、今後も環境の整備、技術の確認、腰痛対策、リフレッシュ方法など検討が必要と考えられた。

5 災害に対する準備について

委員会を中心に、毎月の訓練に加え、話し合い、検討の結果、準備の一環として物品の確認、入れ替え、購入、を行っている。

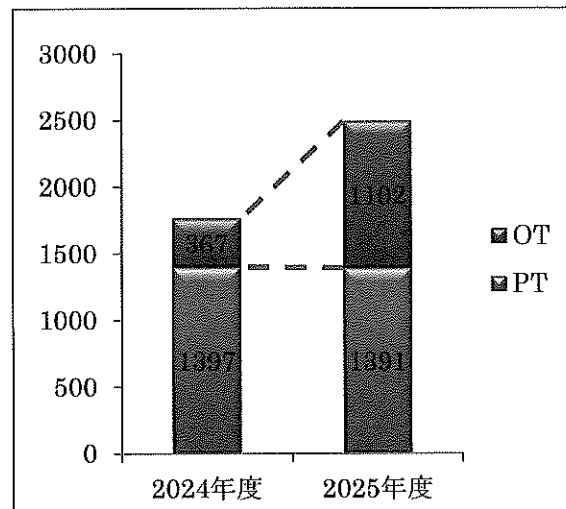
診療課（リハビリセンター）

1 部署運営

- (1) R8年3月現在の在籍職員は常勤PT2名・OT2名となっている。その内OT1名はR7年6月より育休より復帰しており、短時間勤務(6時間勤務)となっている。
感染対策は時期により内容を検討・変更しながら実施した。
入所者及び外来利用者の実施単位数については項目「(2)【図1】(3)【図2】」を参照して頂きたい。
- (2) 委員会等の直接的な臨床業務以外の業務は、各職員の経験や勤務時間に合わせて割り振ることで、その影響が一部の職員へ極端に集中することを避けるよう対応した。他職種との連携や適宜行われるカンファレンス、利用者との日々の関わりは、利用者の生活を考える上で有益だった。
また、関連機関(社会福祉法人 法安寺社会福祉事業部)とのカンファレンスをZoomにてPT(1回/月)・OT(1回/3か月)ともに行っており、直接的な臨床業務に影響ない範囲で定期開催できている。地域の情報交換のために有意義なカンファレンスで、臨床業務を圧迫しない範囲で継続していきたい。
- (3) 1回/月の頻度で持ち回りにて勉強会を実施し、情報共有やスキルの向上に努めている。井上氏のスーパーバイズは2回/月の頻度で実施している。出張は、施設外研修1件、福祉機器展示会へ参加、またその他、各個人で必要な研修に参加し、学びや知見のアップデートを行えた。実習生に関しては、PT・OTともに今年度受け入れは行っていない。
- (4) 職員の感染はインフルエンザ・新型コロナウイルスともに認めたが、感染症に対する勤務の取り扱いに則り対応でき、他職員及び利用者への感染は防ぐことができた。今後も継続して注意しながら柔軟な対応を続けていく。

2 入所リハビリ

- (1) 入所の個別リハビリ実施単位数は【図1】の通りである。2024年度よりも実施単位数としては、PTは維持、OTは大幅に増加した結果となった。PTは昨年入職したリハビリ職員も業務に慣れ、勤務形態等も変化はなかった為、昨年度の実施単位数を維持できた。昨年度OTはほとんどの期間が常勤1名のみであったが、2025年6月より育休中だったリハビリ職員が復職したことにより、常勤2名(うち1名は6時間勤務)体制になったことにより大幅な増加につながった。



【図 1】入居 前年度との実施単位数の対比

- (2) リハビリ部門内で、入所者のカンファレンスを月 2 回(各回に入所者 3～4 名について)の頻度で定期的実施し、現在のリハビリ状況や今後の課題、検討事項についてリハビリ職員間の情報共有に努めた。その内容を基に個別支援計画の現状確認とリハビリ実施計画の立案を行っている。

介入時間の確保と入所職員の業務に支障をきたさないために、1 週間のリハビリ予定を事前連絡し、朝礼にて予定確認も継続している。入所の行事予定や利用者本人の体調等に合わせその都度介入する時間、頻度等を調整した。また、生活支援職員・看護職員からの相談や要望に対する介入や、直接の生活介入も継続した。これにより、より生活に沿った支援が行えていると考える。

生活支援職員とリハビリ職員が協同で行う日中活動も継続して行ってきた(粗大サークル)。目標は、①職員全員で利用者の能力や笑顔を最大限引き出すこと、②今までになかった発想で活動に挑戦すること、③利用者・職員全員で同じ空気感や感情を共有すること、と目標を引き継いだ。活動内容は生活支援職員とリハビリ職員の事前打ち合わせによって能力に合った活動内容の検討が行えた。昨年度と比較し頻度が増えた事で色々な活動を行う事ができ、利用者の反応を丁寧に観察することができ、利用者の笑顔・能力を引き出すことができた。

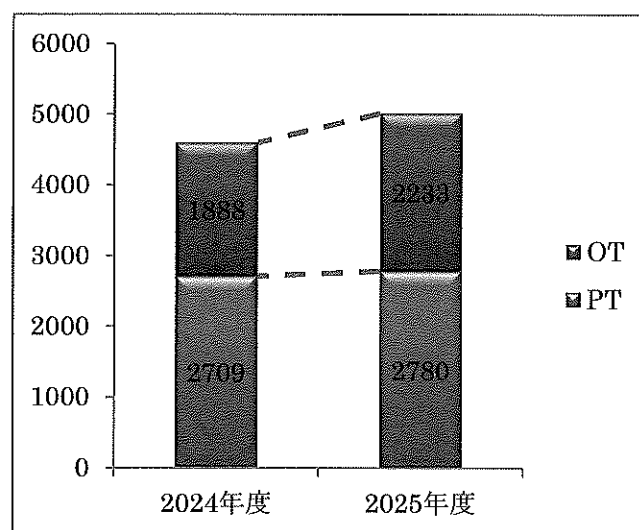
- (3) 入所者のみでなく、短期・中期利用者に関しても個別介入や入所中の姿勢調整、車椅子の調整等、ご家族や職員の要望・必要性に応じて適宜対応し生活の質の向上に努めている。

3 外来リハビリ

- (1) 外来の個別リハビリ実施単位数は【図 2】の通りである。入所リハビリ同様の理由により、実施単位数としては、PT は維持、OT は増加となった。

相談等の対応は継続しており、リハビリ介入時間と同等に有益と考えている。

2020 年度から行っている未就学児のプール活動は、計画はしたが利用者の体調不良によって実施することができなかった。来年度も利用者の体調や天候等を考慮しながら計画を立てていきたい。



【図 2】 外来 前年度との実施単位数の対比

- (2) 今年度も状況に応じて学校・施設職員等の見学を受け入れてきた。見学者は外来見学と補装具外来を中心に【表 1】の通りとなっている。外来見学では実際のリハビリの様子を見て頂き、補装具外来では学校での補装具使用における問題の相談を直接受け、その場で情報交換や相談対応することが出来た。他にも他施設の相談員が設定した担当学会議を当施設で実施し、その会議に参加したり、電話対応を行ったりすることで各関連機関との連携を図ってきた。

また、今年度は当リハビリ職員がグループホームとくまさん教室へ見学に行かせてもらった。情報交換や相談対応することで、各関連機関との連携を図り、利用者の要望へも応えられるように努めた。今後も対面のみならずオンライン等、状況に応じて柔軟な対応を行っていただくと考えている。

所属	2024 年度	2025 年度
小田原支援学校	6	3
ほうあんうみ	2	0
ARS 訪問看護リハビリステーション	3	0
国際医療福祉大学小田原キャンパス	2	0
社会的企業 株式会社 HAS	0	1
グループホーム	0	2
くまさん教室	0	2

【表 1】 見学者延べ人数

- (3) 新規外来利用者数は【表 2】の通りである。昨年度に引き続き安定して増やすことが出来ている。外来利用者数は【表 3】の通りである。昨年度と比較し、新規利用者数は増加し、総外来利用者数もやや増加した。利用者の都合で利用停止になった方もいたが、今年度は新規利用者

の数の方が多かったので、利用者数としてはやや増加の結果となった。

	2024 年度	2025 年度
PT	2	7
OT	2	6
補装具のみ	0	0
合計	4	13

【表 2】新規外来利用者数

		2024 年	2025 年度
PT	6 歳未満	4	4
	6～ 17 歳	32	34
	18 歳以上	45	43
OT	6 歳未満	3	5
	6～17 歳	34	33
	18 歳以上	27	30
合計		145	149

【表 3】外来利用者数

4 その他

- (1) 月 1 回の診療課会議では、診療課全体で情報共有と相談の場となるように努めた。放課後等デイサービスやデイサービスの利用者についても車椅子の相談や姿勢、活動等について実際に現状を確認しながら、随時対応している。外来リハビリ中に利用者から得た要望も、迅速に情報提供や相談するように努めた。
- (2) 2025 年 11 月より、同法人内の「南足柄市障害児通園施設くまさん教室」へ OT1 名が出向している。同法人内の専門職として、利用者やご家族への対応やスタッフへの助言等を実施している。

5 今年度の反省点及び来年度の目標

常勤 PT2 名、OT1 名ではじまったが、2025 年 6 月より、常勤 PT2 名、OT2 名(内 1 名は短時間勤務)で運営を行った。COVID-19 への感染対策は引き続き講じながら実施をしている。

実施単位数は入居リハビリ・外来リハビリともに、PT は維持・OT は増加するという結果になった。PT は昨年度入職したスタッフが業務に慣れた為、昨年度の実施単位数を維持し、OT は 2025 年 6 月より育休中だったスタッフが復職し、常勤 2 名(うち 1 名は 6 時間勤務)体制になったことにより大幅な増加につながったと考えられる。来年度はスタッフ構成に変化はない予定であるのでこのまま維持していき、PT・OT とともに無理のない範囲で実施単位数を確保しつつ、個別リハビリの時間だけに焦点を当てるのではなく、日々の生活をご本人らしく生活できるように支援していきたい。

入所者の活動(粗大サークル)は療育の場としても関わることもできた。リハビリ職員は入所者から外来利用者まで様々な方と関わらせて頂いている。年齢層や生活スタイル、個々の特徴があるが、その特徴に合わせたリハビリを実施していきたい。

井上氏のスーパーバイズは継続して実施できており、利用者に有益だけでなく職員の学びの場として活用することができた。実習生の受け入れは実施できなかったが、来年度以降に実習受け入れの再開予定である。

今年度より、同法人内の「南足柄市障害児通園施設 くまさん教室」へOT1名が出向している。個別リハビリのみではなく、様々な形で地域の専門職を必要としている方へ関わっていけるよう努めていく。

施設全体としても今年度から引き続き見直しが進められており、リハビリセンターも変化に対応していきつつ、リハビリセンターの運営に努めていく。

診療課（栄養管理）

1 給食管理業務

利用者及び職員の健康増進と、食の安全および嗜好や季節感に配慮した食事提供に努めました。

- (1) 月1回のイベント食（行事食・ご当地メニュー・選択メニュー・お誕生日ケーキ）を通じて、季節行事や国内外のグルメを楽しめる機会や、好みに応じてメニューを選択できる機会を提供し、イベント性のある食事による満足度の向上に努めました。
- (2) メニューはサイクルメニューの中に様々な旬の食材を取り入れることで、年間を通して四季折々の味覚が楽しめるよう努めました。
- (3) 毎月、アンケートへの記載内容について給食委員会で公表し、意見や要望については委員会メンバーや委託給食会社と対策を検討し、食事内容へ反映させました。
- (4) 医師・管理栄養士の検食簿の記録から、見直しが必要な献立や調理方法等については検討を行いました。

2 施設設備・衛生管理業務

衛生管理の徹底を図り、安心・安全な食事提供に努めました。

- (1) 委託給食会社による給食提供に対し、安全・衛生かつ適正な栄養価となるよう管理・指導を行いました。
- (2) 厨房設備については必要に応じて点検や修理の手配を行い、適切な管理に努めました。
- (3) 定例の厨房内環境調査により、厨房の衛生状態について検査をしました（6・12月）
- (4) ヒヤリ・ハット（13件/年）の発生時に、再発防止に向けた原因分析と対策の検討を行いました。
- (5) 新型コロナウイルスの施設内感染を防止するため、厨房およびヴィエント（食堂）、その他各現場内の感染予防対策について検討・実施を行いました。

3 栄養管理業務

定期的な病棟訪問や他職種との連携により、適切な栄養管理を行い、利用者の食事療養の推進に努めました。

- (1) 入居者の栄養ケア計画書を作成し、個別支援担当者会議にて他職種と栄養ケアについて協議の上、個別支援計画面談にてご家族への説明（または送付）を行いました。（2回/年）
- (2) 入居者の栄養スクリーニングと栄養管理計画書について定期で見直しを行い、入居者の現状に即した計画となるよう作成しました。
- (3) 栄養状態や食形態などについて他職種とカンファレンス・打ち合せ等を行い、入居者個人の健康状態や嚥下機能に応じた食事内容を検討しました。
- (4) 経管栄養の入居者について、他職種と適宜カンファレンス・打ち合せ等を行い、入居者個人の全身状態に応じた経腸栄養剤等を検討の上、栄養管理を実施しました。

4 その他

- (1) 約束食事箋の内容について見直しを行い、令和7年度版を作成しました。
- (2) 専門書の購読等により、専門職としての知識・技術の向上に努めました。

診療課（薬局）

1 医薬品の適正使用と情報提供

- (1) 処方せんに基づき、利用者、職員の疾病治療のための薬を正確に調剤しました。
- (2) 薬事委員会を開催し、採用医薬品の検討や更新、備蓄量、品目を調整しました。
- (3) 随時、医療情報誌・公文書・メーカー通達書類、インターネット等に目を通し、情報を収集し、特に重要と思われるものに関しては、他の医療従事者と情報を共有しました。
- (4) 利用者家族に、服薬指導、服薬支援を行いました。
- (5) 既存の医薬品では対応できない事例に関して、院内製剤を取り入れ、資料を収集し、医師への情報提供、その他、申請書等の必要書類、患者への同意書を作成し、実施いたしました。

2 他職種との連携

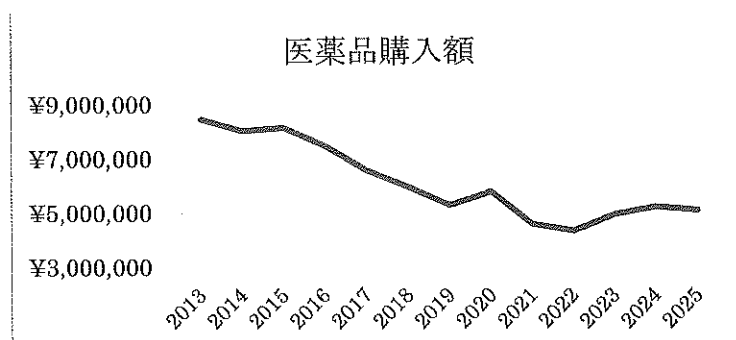
- (1) 処方提案や疑義照会を行うことで、適正な薬物療法を行えるよう貢献しました。
- (2) 摂食指導研修のカンファレンスに参加し、利用者の嚥下状況を把握するよう努めました。
- (3) 短期入所の事前診察に立ち会い、服用している薬についての助言やアレルギー歴などの確認を行い、入所がスムーズに行えるよう、努めました。

3 短期・中期利用者の持参薬の適正対応

- (1) 短期・中期利用者の入所時の面談に立ち会い、看護課と連携して持参薬の管理を行いました。
- (2) 短期・中期利用者ご家族に対し、薬剤情報、保管管理、服薬方法などの指導を行いました。
- (3) 持参薬について、調剤方法の要望や不明点の確認を薬局へ問い合わせることにより、地域連携に貢献いたしました。

4 在庫管理の徹底

- (1) 医薬品等の使用期限の調査を実施いたしました。（実施月：5月）
- (2) 棚卸しを行い、在庫数や金額を把握しました。（実施：9月と3月の2回、在庫金額（薬価換算）1,321,174円（192品目）、988,412円（180品目））
- (3) 過剰在庫や廃棄する医薬品などの無駄を減らすために在庫管理を徹底し、医薬品購入費削減に努めました。
- (4) 品質に問題がない後発品の情報収集を行い、積極的に取り入れることで、医薬品費を減らすよう努めました。



※すでに入所している方より、新規の長期入所者の薬の方が高価な場合が多く、医薬品購入費が一時期より上がっている。

5 医療安全における医薬品安全管理

- (1)「医薬品安全使用のための研修」の講師を務め、医薬品の医療事故防止のために、特に注意が必要な医薬品の説明を行いました。
- (2)「医薬品安全使用のための業務手順書」を改訂し、令和7年度版を作成しました。

6 専門職としての知識の向上および他施設との連携

- (1) 小田原薬剤師会、神奈川県病院薬剤師会、製薬会社等が開催する勉強会に出席し、薬学や医療に関する知識を習得しました。
- (2) 全国重症心身障害児者施設職員研修会に参加し、知識の習得や他施設との関係構築に努めました。

【処方箋枚数】

区分	入院（長期・中期）			計	短期			計	外来		計	総合計
	定時処方	臨時処方	注射せん		持参薬	臨時処方	注射せん		職員	デイ		
4月	53	99	0	152	26	0	0	26	2	0	2	180
5月	52	60	3	115	28	0	0	28	2	0	2	145
6月	49	78	1	128	32	0	0	32	1	0	1	161
7月	51	65	0	116	33	0	0	33	0	0	0	149
8月	47	87	7	141	9	0	0	9	4	0	4	154
9月	49	97	1	147	8	0	0	8	2	0	2	157
10月	46	122	5	173	32	0	0	32	7	0	7	212
11月	46	99	0	145	21	0	0	21	8	0	8	174
12月	72	68	0	140	31	0	0	31	1	0	1	172
1月	66	57	0	123	28	0	0	28	1	0	1	152
2月	46	53	4	103	25	0	0	25	3	0	3	131
3月	48	73	1	122	21	7	1	29	3	0	3	154
合計	625	958	22	1605	294	7	1	302	34	0	34	1941

7 事故・ヒヤリハット報告件数

- (1) 事故：0件
- (2) ヒヤリハット：8件
 - ①調剤ミス 6件
 - ②配薬セット間違い 1件
 - ③薬札の記載間違い 1件

風祭事業部

デイサービスセンター

1 利用者の状況（別紙資料【表1】参照）

令和8年3月31日現在の登録者数は、重症心身障害者28名、身体障害者11名、知的障害者1名、計40名となっています。前年同期と比較して、令和8年3月に重症心身障害者が1名施設入所されたため、合計の登録者数は1名減となります。

また、令和7年度の延べ利用者数は、3,687人で、1日平均14.6名、前年度と比較して24名減少となっています。理由としては、体調不良での長期入院や自宅療養が必要となった方が複数名居られた事が考えられます。

2 個別支援計画の充実

利用者本人や家族の意向を確認し、サービス等利用計画に基づく、個別支援計画の作成を行いました。作成会議を通じて職員間で情報共有を行い、医療・栄養面も含めた多角的な視点で支援内容を検討しました。余暇活動についても、個々の障がい特性に配慮し、本人の意向に沿った活動を計画しました。さらに、定期的なモニタリングにより評価と見直しを行い、支援の質の向上に繋がりました。

3 日中活動等（別紙資料【表2】参照）

利用者の意思や主体性を尊重する為、活動内容の選択やイベント企画において、事前に希望を聞き取る機会を設けました。言語での意思表示が難しい方に対しては、表情、視線、身体の動きなどから意思を汲み取れるように努めました。

活動内容としては、制作活動では今まで1人1作品を作成していましたが、今年度は「デイフロアで四季を感じよう」をテーマに、季節ごとに利用者全員で1つの壁画を作りました（花紙を使った桜の木、折り紙を使った打ち上げ花火、画用紙を使ったクリスマスツリーなど）。利用者全員で作成することで、作成中の利用者間のコミュニケーションや完成した時の喜びを共有することが出来ました。出来上がった作品は廊下に展示し、ご家族や関係機関の方等に見ていただきました。

来年度は内面的なアセスメントを深め、利用者一人ひとりの出来る事や変化を把握し、活動に取り入れていきたいと思えます。

4 人材育成

支援終了後のミーティングや記録を通して、日々の振り返りを行い、利用者一人ひとりに応じた支援方法について、職員間で共有を行いました。支援方法や関わり方を共有することで、相互に学び合い、チームとしての支援力向上に努めました。

また、定期的にヒヤリハットや事故報告書の振り返りを行い、暫定対策の妥当性や再評価を行いました。定期的な分析をすることで、ヒューマンエラーの他、環境やシステムへの課題にも着目出来、リスク視点の拡大と安全意識の向上に繋げ、再発防止に努めることが出来ました。

放課後等デイサービス「きゃんばす」

1 利用児童の状況（別紙資料 【表3】参照）

令和7年度は、新規利用者1名を迎え、小田原市14名、南足柄市1名、箱根町1名の計16名（内、医療的ケア児11名）となり、昨年度末より登録者数は1名増となりました。

また、利用状況につきましては、8月に感染症拡大防止による臨時休業が2日あったものの、延べ利用数は1,409名となり、前年度と比較して13名微増となりました。

2 個別支援計画

日々の支援記録や家族、学校等関係機関からの情報をもとに、利用者の心身の状態や特性、課題について部署内で検討し、個別支援計画への反映に努めました。新たに問題や課題が生じた際には部署内ミーティングを開催し、解決への手立てを話し合いましたが、職員間で問題や課題に対する意識や理解に差がみられる場面もありました。

そのため次年度は、視点の統一を図り、健康面や生活面の変化に対応できる体制づくりを進めていきたいと思います。

3 発達支援（別紙資料 【表4】参照）

活動プログラムが固定化しないよう、季節行事や制作活動、屋外活動など多様な活動を組み合わせ、同じ遊びでも目的や方法（動作、道具、ルールなど）を変える工夫を行いました。また、児童の発達支援における5領域を踏まえ、各領域をバランスよく取り入れた遊びの内容について職員間で検討を行い活動予定表に明文化することで、支援の目的を意識した活動の提供につながりました。

4 家族支援

家族参加の取り組みとして、法人秋祭りの際に親子販売会を実施しました。商品の制作やポスターづくりなどの準備から子どもたちが主体的に携わり、その様子や進捗を事前に保護者へ伝えたことで、家庭での会話のきっかけや販売会への関心につながり、その結果、昨年を上回る参加人数となりました。また、きょうだい児の作品展示も同時に開催したことで、家族全体で参加できる機会となり、親子の関わりを深めるとともに、保護者同士の交流の場として有意義な時間となりました。

5 地域支援

学校迎え時には、担任より体調や様子について丁寧に引き継ぎ、日々の支援に反映しました。また、相談支援専門員や学校関係者とケース会議を実施し、児童の課題や支援方法について共通理解することで体制の充実を図りました。

社会体験の場として、コンビニエンスストアやファーストフード店等を利用し、自分で商品を選ぶ楽しさや店内の雰囲気を味わったりするなど、地域の中で活動する機会となりました。事前にメニューや商品を写真や画面で確認し、買い物手順を練習したことで、当日は、見通しを持って参加できたようでした。

6 安全管理

夏季においては、熱中症対策として室内の温度管理やこまめな水分補給、体調観察の実施とともに、保護者に保冷剤や帽子等の準備を依頼するなど家庭とも連携し、児童が安全に過ごせるようにしました。

不審者対応については、部署内で訓練を実施し、緊急時の動線や役割分担、対応方法について確認しました。訓練後には振り返りを行い、課題や改善点を整理した上で、マニュアルの内容を追加・見直しを行い、安全管理体制の強化に努めました。

7 人材育成

部署内での勉強会を年6回実施し、利用児の主な疾患について症状や特徴、発達や予後等を調べ、職員間で共有や意見交換をおこないました。また、機能訓練士等の専門職から助言を受ける機会を設け、児童の身体状況や発達段階に応じた関わり方について学び、より適切な支援の実施につなげました。

地域支援センター

ヘルパーステーション

1 利用者の状況

令和7年度は、障害児者30名にサービスを提供しました。(内訳:身体障害者9名、重心者7名、知的障害者9名、知的障害児1名、視覚障害者1名、精神障害者3名)
契約解除者は、転居をされた精神障害者1名となっています。

2 利用実績 (別紙資料【表1】参照)

- (1) 居宅介護事業では、昨年度の876.5時間から今年度は901.5時間の提供実績でした。
利用者、家族の意向に沿いながら、ヘルパー派遣調整をおこない、継続した支援をすることが出来ました。
- (2) 移動支援事業は昨年度の495.0時間から今年度は667.3時間と増加となっております。
時間数が増えた要因としては、利用者の社会参加の機会を広げるため、買い物や余暇外出などの予定を計画的に増やしていったことが挙げられます。
- (3) 福祉有償運送は、昨年度369回から今年度は294回となりました。
走行距離では昨年度の2032.0kmから今年度は1983.3kmとなりました。

3 関係機関との連携

ケースに応じて関係機関と情報共有を行い、利用者の心身状況や生活環境の変化に応じた支援内容の調整に努めました。

4 多様な障害種別への対応

個別支援計画に基づき、障害特性に応じた個別支援を基本とし、利用者それぞれについて、コミュニケーション方法、介助量、環境調整などを行い対応しました。

5 事業の受託

障害福祉サービス等地域拠点事業(あんしんネット)

利用者の登録状況は、10名となっています。

登録者の近況状況の確認、ニーズの見直し、支援の整理、関係機関の関わり方などを表にまとめ、統一した支援が出来るよう関係機関との話し合いを重ねる機会を持ちました。

相談室

1 基幹相談支援事業

地域の相談支援の拠点として総合的な相談業務を行い、地域の実情に応じて以下の業務を実施しました。

(1) 総合的・専門的相談を可能とする地域の相談支援体制の構築

支援者とともに専門的支援を要する方の支援課題の整理を行い、必要に応じて専門機関と協働し、伴走・後方支援を継続しました。

(2) 地域の相談支援体制の強化

地域障害者自立支援協議会・専門部会の事務局運営を通じて抽出した地域課題解決に向けた官民協働での取り組みを継続しました。また、協議会の取り組みの中で、日中サービス支援型共同生活援助への支援を行いました。

さらに地域生活支援拠点事業においては、登録事業者との連絡会を開催し、登録者の緊急時の支援について検討しました。

その他、基幹相談・主任相談支援専門員との連絡会において、新規開設事業所の支援をはじめとした地域での人材育成について検討しました。

(3) 困難とを感じる支援等の相談対応

関係機関と連携し支援課題の整理・見立て等の実施および支援者に対する後方支援を継続しました。具体的には、専門的支援を要する方の住まいについての検討や触法ケースの支援、複合課題を抱える世帯への支援等において、継続的に支援をしました。

また、重層的支援体制整備事業において、関係機関とともに課題を整理し、課題解消に向けて検討しました。

(4) 1市3町の行政機関・地域の相談支援事業所を対象に各種研修・社会資源等に関する情報の収集・整理・発信

研修・連絡会等の周知案内および新規事業所の開設のお知らせ等、情報の収集・整理・発信を行いました。

2 障がい者相談支援事業

年齢・障がいの種別を問わず、個別支援を実施するため、以下の業務を行いました。

(1) セルフプランフォローを含めた障がい福祉サービスの利用援助・社会資源の活用および障がい特性に関する専門的支援に係る他機関との連携協働

ご本人・ご家族からの個別相談の他、必要に応じて関係機関と連携協働しながら支援しました。

支援の範囲も幅広く、障害福祉サービスの案内から同行支援（病院、事業所見学、認定調査、不動産会社、各種申請に係る手続き等）、また緊急時における居所の確保等について対応しました。

(2) 箱根町・真鶴町・湯河原町の出張相談の実施

行政担当者と連携し、地域ごとの実情・課題に応じた相談支援を実施しました。個別相談においても、身近な相談窓口があることで、遠方にお住まいの方にも相談支援を届けられるように体制を整えて実施しました。

(3) ピアカウンセラー（聴覚）の活動の機会と場の確保

活動の機会と場を継続支援し、障がいのある方同士のつながりや支え合いエンパワメントをサポートしました。

(4) 地域生活支援拠点事業におけるコーディネーターの役割

登録者の状況把握・緊急時の居所の確保およびその後の生活等の支援について、行政・基幹相談と連携しながら支援しました。定例会議の中で状況報告し次のアクションについて検討しています。

(5) 事業を実施する上で必要な事務および事務費の運用管理

本事業は4つの法人が入っている事業であるため、リーダー法人（委託相談支援事業その1）として、意見の取りまとめや運営に係る事務・費用の管理等を担い、事業が円滑に遂行するように取組みました。

3 かながわ医療的ケア児支援センター 地域相談窓口設置業務（県西圏域）

圏域内の医療的ケア児及びその家族又はその他の関係者を総合的に支援し、医療的ケア児に関する課題の抽出・報告、関係団体への支援を適正かつ円滑に遂行することを目的とし、以下の業務を行いました。

(1) 圏域内の医療的等ケア児等からの相談対応

医療的ケア児の数は微増傾向にあり、相談内容に応じて、訪問・面談・手続き等の支援を行いました。またランチでは、相談の傾向や地域課題等の抽出を行い、行政担当課と共有しました。

(2) 医療的ケア児等が直面する課題の把握及び報告

個別の課題について支援を検討するとともに、複数の同一課題においては地域課題と認識し、ランチから県に報告しました。主な圏域内の課題は、動ける医療的ケア児のレスパイト先の不足、保育園や幼稚園・学校での対応に関する課題、送迎に関する課題、訪問看護の活用に関する課題、きょうだい児を含む家族支援等が複数件ある状況となっており、市町及び県に報告しています。また、他圏域の状況や取り組みが進んでいる市町の情報収集に努め、市担当者に提案しました。

(3) 圏域内の医療的ケア児等を支える関係機関等への支援

相談支援専門員や保健師への同行訪問を実施し、支援内容や支援方針、課題に対する検討を行い、必要に応じて各機関の紹介やつなぎを行いました。

(4) ランチ会議の開催

医療的ケア児等の支援体制の強化や地域課題の解決に向けた検討を行うため、圏域内の市町・医療・福祉・教育等の関係機関で構成する会議を開催しました。

小田原保健福祉事務所と共催で小児等在宅医療の推進部会を開催しています。今年度の主な取り組みとしては、災害対策をテーマとしモデルケースを通じて、医療的ケア児の個別避難計画作成に向けたワーキングを継続実施しました。

4 小田原市医療的ケア児等コーディネーター配置事業

県西圏域2市8町より受託し、医療的ケア児及びその家族が地域で安心して暮らしていけるよう支援の充実を図ることを目的とし、以下の業務を行いました。

(1) 多分野にわたる課題解決のため、保健・医療・福祉・子育て・保育・教育等の必要な支援の総合調整

医療機関、保健福祉事務所、市町の各関係課、教育委員会等と連携し、ケースの見立て、課題の共有・解決に向け関係機関と協働で支援しました。

(2) 訪問等による個別相談支援の実施また必要に応じた個別ケース会議の開催

医療機関からの新規の相談件数が増加傾向にあり、本児の周囲の支援（きょうだい児・家族）への相談も増加しており、他機関とともに支援を継続しました。

(3) 関係機関が開催する協議の場への出席

県・市庁内連携会議、保健福祉事務所母子保健委員会、通所検討会議等に参画し、地域課題や市町村コーディネーター配置事業について報告するとともに、地域課題と解決に向けた取り組みの提案をしました。

(4) コーディネーター間の情報共有および行政との連携

地域のコーディネーターも参加し、毎月事業担当行政と定例会において、個別ケースの状況や課題について報告し検討しました。

(5) 地域における支援体制の構築

関係機関のみならず、地域の家族交流会、県の家族会ピアサポート研修、民間の一時預かりやクリニック・助産院の協力、心理研究会への講義等を通じて、インフォーマルな地域資源とのつながりを創りました。

5 計画相談事業（別紙資料【表2】参照）

(1) 障害福祉サービスの計画相談支援の実施

障がい児者の心身の状況、その置かれている環境、障害福祉サービスの利用に関する意向等を勘案し、利用する障害福祉サービスの種類および内容を定めた計画作成及び障害福祉サービス事業者との連絡調整を行いました。

(2) 障がい児者の継続サービス利用支援の実施

利用者の生活状況やサービス利用状況を定期的に確認し、モニタリングを通じて課題の把握を行いました。必要に応じてサービス内容の見直しや関係機関との調整を行い、継続して適切な支援が受けられるよう支援しました。

(3) 関係機関との連携・ネットワークの構築について

各事業所や医療機関等と連携し、情報共有やケース会議を通じて支援方針の統一を図りました。また、他相談事業所との連携や事業所訪問を通して関係づくりを行い、円滑な情報共有および協力体制構築に努めました。さらに自立支援協議会や相談支援専門員連絡会等に参加し、地域の社会資源の把握とネットワークの強化を図りました。

(4) 在宅重症心身障害児者訪問指導事業の実施（別紙資料【表3】参照）

神奈川県総合療育相談センターからの依頼を受け、訪問指導の必要がある対象者とその家族に対して、当法人職員が自宅等を訪問し、関係機関と連携しながら必要な助言や支援を行い、安心して在宅生活が継続できるように支援しました。

地域活動支援センター ひまわり

1 利用者の状況（別紙資料【表4】【表5】【表6】【表7】参照）

令和8年3月31日時点の登録者数は、南足柄市42名・中井町6名・大井町10名・松田町5名・山北町9名・開成町33名・計105名となっています。その内訳は、精神障がい者73名、知的障がい者21名、身体障がい者4名、難病患者1名、就学前児童6名となります。

今年度は244日開所し、延べ利用者数は1757名でした。前年同期の比較では、登録者は同数、開所日数は横ばいですが、延べ利用者数は221名増加となっています。

2 日中活動（創作的活動等の機会の提供）（社会との交流の促進）

<成人部門>

利用者の主なニーズとして、安心できる居場所、余暇の充実、対人技能や生活リズムを回復したい、新しい生活目標を見出したい等のニーズがあります。これらのニーズの充足にあたっては、集団活動を媒介としたピア同士の情報交換や支え合いが必要であり、利用者の強みを活かした活動内容とする為に利用者と職員がミーティングを重ね、プログラムを検討しました。また、興味関心やニーズの多様性に応えることが必要であるという理由から、特性の異なる主なプログラムを以下のように設定・実施しました。

（1）外出プログラム

公共交通機関の利用に慣れていない方の練習や、気分転換の機会となっている。一人で外出することに不安を持つ利用者も、グループでの外出プログラム参加を通じて自信が付き、利用者同士で自発的に外出する機会を持つ等、社会参加の拡大に繋がっている。

（2）調理プログラム

献立の話し合いや買い出しから、すべての工程を利用者と共に行い、利用者同士の繋がりを深める機会となっている。

（3）写真同好会

利用者が撮影した写真を持ち寄り、プロジェクターに映写して、日常生活を共有する活動。利用者同士の情報交換が意欲に繋がったり、取り組んでいる活動を認めてもらうことで自己肯定感の向上に繋がったりしている。

（4）ミーティング

プログラムの企画についての意見や利用上のルールの検討等を行い、プログラム参加の動機付けをねらいとして実施。利用者間で市町のインフォーマルな資源に関する情報交換にも繋がっている。

（5）地域のイベント参加

自治会や市町のイベントにグループで参加。恒例行事として参加することで、地域交流に繋がっている。また今年度は（開成町民生委員児童委員協議会・社会福祉協議会）ふれあい交流実行委員会主催の「ほのぼのサロン」に地域活動支援センターとして参加した。

<児童部門>（親子通所における家族支援）

親子通所事業では、児童の発達の基盤である「家庭の安定」「養育環境の充実」を目的として事業展開しています。親子が家庭で一緒に楽しめるふれあい遊びを多く取り入れ、児童に対する遊びの誘い方や、声掛け等を一緒に体験し、遊びの楽しさを共有することにより、家庭内でも無理なく過ごせる環境づくりをするとともに、親子の心身のリフレッシュの機会となっています。また、各市町の保健師との連携を密に図ることにより、児童、家族の変化や様子をタイムリーに情報共有することができました。また、定期的にカンファレンスを行うことで、卒業後のつながり先へのスムーズな引継ぎもできています。

3 関係機関・事業所との連携（地域支援）（別紙資料【表 8】参照）

地域に根ざした事業展開をしていく為に、別表の会議、協議体へ参画しました。

4 交流スペースの活用

小学生が夏休みに過ごす場所として利用される等の実績も増えています。また、くまさん教室および地域活動支援センターの利用者（親子）を対象としたアニマルセラピーのイベントを実施しました。参加した親子は犬との触れ合いを楽しみ、良好な雰囲気の中でプログラムを通じて交流することができました。

5 普及啓発事業 ちいきふくし博（令和 8 年 2 月開催）

地域住民に障がいのある方への理解を深めていただく普及啓発のイベントとして、足柄上地域の障害福祉関係事業所が集まり実行委員会形式で企画し、2月4日～6日は南足柄市役所アトリウムにて開催しました。イベント会場とオンライン開催（特設ホームページ）に加えて、足柄上地区地域自立支援協議会権利擁護部会が制作したスライドショーを足柄上地区の市町村庁舎内モニターで2月に月間上映しました。今年度は足柄上地区1市5町の月間ミニ展示、毎年恒例の福祉事業所の利用者による絵画コンクール作品の展示、当事者団体や福祉事業所の出展、自主製品の販売の他、パラスポーツ、ボッチャ体験会も加わった。ホームページでは、絵画コンクールに応募された全192点の絵画展示を行い、作者との交流を促進する試みとして、オンラインによる人気投票のみならず、作品や作者に対するコメントも募集した。南足柄市及び足柄上郡5町の会場では、2月中に約2450名の来場があり、2月末時点のホームページアクセス数は延べ519件、合計2,900名を超える方に対する普及啓発が展開できました。

6 人材育成・資質向上の取り組み

地域生活の支援力向上、利用者の特性に応じた適切なサービスを提供できるよう、障がい者虐待防止と対応については、法人内部の研修に加えて、外部の研修にも参加しています。

南足柄市障害児通園施設「くまさん教室」

1 開所日時・開所時間

	さくらんぼ組	みかん組
内容	未就園児を対象として(一部就園児を含む)を対象として、個別支援を中心に、生活習慣の確立を目指し、利用児童の早期の育みの場所として、就園の準備をしています。	就園児童を対象として、集団での適切なコミュニケーションの学びと、児童の相互の関係性の育ちを期待し、自主性や自立性を養い、就学に向けての準備をしています。
開所日時	月曜日～金曜日	金曜日のみ
開所時間	9:30～13:00	14:30～16:30

2 利用者実績数及び主な行事参加者実績（【表 9】【表 10】参照）

（1）本人支援

児童と家族のニーズを適切に把握し、心身の健康等に関する 5 領域の視点を踏まえた上でアセスメントを行い、発達段階に応じたオーダーメイドの支援が可能になるように務めました。

（2）家族支援

家族が地域で安心して暮らすことが出来る基盤作りの場として不安や悩みに寄り添い、お子さんの「育ち」を確認し合うこと（連絡帳・送迎時の話）に重点を置きました。加えて移行に対する保護者の思いを聴き知りたい情報の発信にも務めました。個別の支援場面の参観を通して子どもの特性や具体的な関わり方についての相談援助や定例の保護者会では日頃の活動状況の動画を視聴する機会を設けるようにする事でお子さんの変化を感じてもらえる取り組みも行いました。

（3）移行支援

児童が可能な限り地域の保育、教育等が受けられるように希望された移行先の幼稚園・子ども園・保育園等との連携を図りました。ご家族の了解を得た上で移行先との事前調整、特性や関わり方、行事の練習方法等について相互の意見交換を行い、スムーズに移行に繋がっていくよう務めました。

（4）地域支援・地域連携

今年度は市内の子育て支援センター「にこっと」からの要請で「多世代交流会」へ参画し地域の子育て世代はもとより幅広い世代の方々とも交流を図り「くまさん教室」の周知に努めました。また、児童の気になる段階からの支援体制として、南足柄市フォロー教室、ひまわり児童部門との連携を図る事で子育て世代の家族のメンタルの安定、児童の 2 次障害の予防等に務めました。

(5) 人材育成

教室内では臨床心理士を中心に、月毎の療育内容の振り返りや児童の個別の支援方法の見直しをおこなっています。また、職員の支援力向上・適切なサービスの提供を目指して事業所内での相互の学び合いや近隣開催の研修や配信される研修、法人内の研修等を積極的に受けるようにし、職員間での共有に務めました。

【資料】

施設部 太陽の門重症心身障害児（者）施設利用状況

【表 1】入所

定員 50 人	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
4/1 在籍（人）	49	48	50
3/31 在籍（人）	48	50	48
実利用者（人）	51	50	50
医療ケア度	内/超重症児者 0 名 内/準超重症児者 7 名	内/超重症児者 0 名 内/準超重症児者 7 名	内/超重症児者 0 名 内/準超重症児者 7 名
年内延数（人）	16,917	17,392	17,868
稼働率（％）	92.4	95.3	98

※ベッド稼働率＝延数計÷（定員×【4月～3月総日数 365 日】）×100

【表 2】短期入所

定員 2 人	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
4/1 在籍（人）	1	1	1
3/31 在籍（人）	1	1	2
実利用者（人）	25	26	27
医療ケア度	内/超重症児者 2 名 内/準超重症児者 2 名	内/超重症児者 2 名 内/準超重症児者 2 名	内/超重症児者 2 名 内/準超重症児者 1 名
年内延数（人）	354	535	522
稼働率（％）	48.3	73.2	72

■総計（入所・短期）

定員 52 人	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
年内延数（人）	17,271	17,927	18,390
稼働率（％）	90.7	94.4	97

令和 7 年度 太陽の門 日中活動実績表

【表 3】目的別活動月別参加者

活動/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延
光×リ ラクゼ ーショ ン	回数	1	1	1	1	－	－	1	1	1	1	1	10
	人数	4	4	3	4	－	－	4	3	3	4	3	35
飲食 （シェ フ、食 いしん 坊）	回数	1	2	2	1	1	1	2	2	1	1	2	17
	人数	4	9	12	3	4	5	9	8	4	3	8	73
粗大運 動	回数	2	1	2	2	－	－	2	1	2	2	1	17
	人数	9	4	8	9	－	－	8	4	7	10	4	71

音楽 サークル	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	人数	5	5	5	5	6	5	6	5	6	5	6	5	64

【表４】目的別外出

内容	行先	参加回数	参加人数
春の散歩・ドライブ月間 (4～5月)	小田原周辺 ※施設周辺商業施設等への立ち寄りせず に実施。人がいない場合に限り降車。	10	32
秋の散歩・ドライブ月間 (10～11月)	小田原周辺 ※施設周辺商業施設等への立ち寄りせず に実施。人がいない場合に限り降車。	0	0

【表５】主な小集団活動

月	4月			5月				
内容	振り返りの会	グループ活動	グループ活動	誕生会	端午の節句	グループ活動	グループ活動	フラワーアレンジ
場所	各デイルーム	菜の花ガーデン	諏訪の原公園	各デイルーム	各デイルーム	彫刻の森美術館	小田原駅周辺	3階デイルーム
参加者	全員	6	6	全員	全員	3	7	3

月	6月				7月			
内容	誕生会	グループ活動	実習療活動 実生 育活動	グループ活動	誕生会	プール(4回実施)	グループ活動	グループ活動
場所	各デイルーム	ダイナシティー	Sデイルーム	諏訪の原公園	各デイルーム	4階テラス	ダイナシティー	平塚ジェラテリアベガ
参加者	全員	6	S全員	5	全員	12	3	4

月	7月	8月				
内容	グループ活動	誕生会	風祭地区盆踊り	かき氷大会	フラワーアレンジ	スイーツ作り
場所	箱根水族館	各デイルーム	神社	各デイルーム	S側デイルーム	ヴィエント
参加者	3	全員	4	全員	3	3

月	9 月					10 月
内 容	誕 生 会	実 習 生 療 育 活 動	敬老会	グ ル ー プ 活 動	グ ル ー プ 活 動	誕生会
場 所	各 デ ィ ル ー ム	N 側 デ ィ ル ー ム	各 デ ィ ル ー ム	4 階 テ ラ ス	シ テ ィ ー モ ー ル	各 デ ィ ル ー ム
参 加 者	全 員	N 全 員	7	7	4	全 員

月	10 月			11 月				
内 容	グ ル ー プ 活 動	グ ル ー プ 活 動	花 火 活 動 (3 回)	誕 生 会	流 し そ う め ん	ス イ ー ツ 作 り	グ ル ー プ 活 動	グ ル ー プ 活 動
場 所	N 側 デ ィ ル ー ム	ダ イ ナ シ ー	2 階 職 員 通 用 口	各 デ ィ ル ー ム	N 側 ・ S 側 各 デ ィ ル ー ム	ヴ ィ エ ン ト	ダ イ ナ シ テ ィ ー	N 側 デ ィ ル ー ム
参 加 者	11	6	27	全 員	全 員	6	6	5

月	12 月			1 月				
内 容	誕生会	グ ル ー プ 活 動	グ ル ー プ 活 動	誕生会	駅 伝 応 援	グ ル ー プ 活 動	エ ス テ	グ ル ー プ 活 動
場 所	各 デ ィ ル ー ム	S 側 デ ィ ル ー ム	N 側 デ ィ ル ー ム	各 デ ィ ル ー ム	国 道 1 号 沿 い	S 側 デ ィ ル ー ム	家 族 室	N 側 デ ィ ル ー ム
参 加 者	全 員	12	12	全 員	6	12	1	11

月	2 月			3 月			
内 容	誕生会	グ ル ー プ 活 動	グ ル ー プ 活 動	誕生会	グ ル ー プ 活 動	個 別 ラ ン チ 会	グ ル ー プ 活 動
場 所	各 デ ィ ル ー ム	S 側 デ ィ ル ー ム	N 側 デ ィ ル ー ム	各 デ ィ ル ー ム	N 側 デ ィ ル ー ム	S 側 デ ィ ル ー ム	S 側 デ ィ ル ー ム
参 加 者	全 員	11	12	全 員	11	1	13

ボランティア受入状況

【表 6】

内容/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
地域ボ ラ	回 数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	延	3	4	4	3	3	3	3	4	2	3	4	3	39

※毎月第3水曜日に地域のボランティアの方へ来所していただき、活動の小道具（花飾りなど）の手伝いや、縫物（衣類のほつれなど）を行っていただいている。

実習生・研修生の受入状況

【表 7】

種別	学校	期間	人数
保育士	大原学園保育専門学校	6/16 - 6/27	1名
	小田原短期大学	8/18 - 8/29	1名
	鎌倉女子大学短期大学部	9/1 - 9/13	1名
	東海大学	9/15 - 9/27	1名
計			4名

※令和7年度は、対象者となる生徒が不在等の理由により実習を辞退される学校もあり4名のみの受け入れとなっている。（昨年度実習生受け入れ 7名）

リスクマネジメント関連

【表 8】

ヒヤリハット：42件

- ＜医師診察なし内出血＞ 1件
- ＜落し物＞ 2件
- ＜高柵ベッド鍵忘れ・柵上げ忘れ＞ 5件
- ＜洗濯物関係異物混入＞ 4件
- ＜その他＞ 30件

■具体的内容

- ・遅薬
- ・利用者が車いすフットレスト下にいた
- ・左すねの皮膚剥離
- ・水薬不足 8月 10月
- ・薬剤不足
- ・肘がベッドに挟まっていた
- ・夕食後ピコスルファートセット間違い
- ・利用者がクッションチェアから転倒
- ・食事中にシリコンスプーン欠けた
- ・電気毛布温度が最大となっていた
- ・立てかけていたサークルベッド柵が倒れて利用者が下敷きになった
- ・薬を落とした
- ・→利用者の夕時の内服薬の紛失
- ・右腕が車いすテーブル下に挟まる
- ・酸素止め忘れ
- ・車いすクッション上下逆
- ・食形態間違え
- ・車いす座面にハサミ忘れ
- ・スタイの紐で首に跡がついていた
- ・洗身台から利用者を抱えて職員が転倒

- ・利用者の足にカートぶつけた
- ・置忘れ
- ・ピジョンの中にブラシ
- ・短期利用者の衣類返却間違い
- ・S側エレベーターホール、デイルーム間のドアが全開
- ・利用者寝具より使用済手袋発見
- ・利用者が口の中に靴下を入れていた

事故報告：55件

＜薬関係＞ 抜薬：14件 誤薬：2件 薬の紛失： 件
 ＜医師診察あり・利用者ケガ＞ 内出血：5件 爪切り：3件 その他：5件
 ＜そのほか＞：26件

■具体的内容

- ・利用者が後ろに転倒し頭強打
- ・退所者の薬を渡し忘れ、母親へ返す際に1包廊下に落とした
- ・同姓の方の食事提供間違い
- ・GE液の量間違い 6月 11月
- ・利用者の夕食分の酸化マグネシウムがセットされていなかった
- ・左足甲あたりのベッド柵に挟まった
- ・誤って浣腸をしてしまった
- ・気切ベルト交換時気切が抜けた
- ・点滴滴下間違い
- ・加湿器カバーが手の甲に落ちた
- ・禁止のフルーツを食べさせた
- ・体重計から転落
- ・食事時の誤嚥
- ・吸入薬の間違い
- ・注入量の間違い
- ・粉碎してはいけない内服薬を粉碎した
- ・入浴させてしまった
- ・送信機の破損
- ・気切カニューレ抜去
- ・吸入薬の与薬間違い
- ・移乗介助時にNGチューブを抜去 1月 2月
- ・浴槽の破損
- ・ベッド上に経管栄養のキャップが落ちていた
- ・トランス中の転倒

風祭事業部利用状況

1 デイサービス

【表 1】利用状況

上半期

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
開所日数	21 日	20 日	21 日	23 日	18 日	22 日
延べ利用者数	306 名	282 名	322 名	334 名	265 名	339 名
利用者数／日	14.6 名	14.1 名	15.3 名	14.5 名	14.7 名	15.4 名
登録者数	41 名	41 名	41 名	41 名	41 名	41 名

下半期

月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	昨年度
開所日数	24 日	20 日	21 日	20 日	20 日	22 日	252 日	245 日
延べ利用者数	340 名	279 名	309 名	297 名	281 名	333 名	3,687 名	計 3,711 名
利用者数／日	14.2 名	14.0 名	14.7 名	14.9 名	14.1 名	15.1 名	平均 14.6 名	平均 15.2 名
登録者数	41 名	41 名	41 名	41 名	41 名	40 名	平均 41 名	平均 41.8 名

【表 2】日中活動の状況

活動項目	実施日数	参加利用者数	活動項目	実施日数	参加利用者数
制作	32 日	407 名	リクエスト活動会議	20 日	389 名
音楽	30 日	398 名	リクエスト活動	35 日	481 名
スポーツ	45 日	748 名	料理	5 日	74 名
お楽しみ活動	60 日	1,021 名	ハロウィン	5 日	76 名
夏まつり	5 日	72 名	クリスマス	5 日	74 名
成人を祝う会	2 日	32 名			

2 放課後等デイサービス

【表3】放課後等デイサービス「きゃんばす」利用状況

上半期

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	22日	21日	21日	23日	15日	22日
延べ利用者数	125名	120名	121名	132名	85名	129名
利用者平均	5.7名	5.7名	5.8名	5.7名	5.6名	5.9名
登録者数	16名	16名	16名	16名	16名	16名

下半期

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度合計
開所日数	23日	20日	21日	20日	20日	22日	250日	249日
延べ利用者数	121名	102名	120名	112名	116名	126名	1,409名	1,396名
利用者平均	5.3名	5.1名	5.7名	5.6名	5.6名	5.7名	平均5.6名	平均5.6名
登録者数	16名	16名	16名	16名	16名	16名	平16名	平14.8名

【表4】放課後等デイサービス「きゃんばす」日中活動の状況

活動項目	実施日数	参加利用者 延数	活動項目	実施日数	参加利用者 延数
季節行事（キャンプ・Xmas・餅つき等）	50日	273名	料理活動・大掃除	11日	60名
スポーツ（運動会・サーキット等）	18日	102名	散歩・買い物	22日	101名
制作（季節の制作等）	48日	295名	園芸活動	15日	87名
個別課題活動	71日	416名	光遊び・足浴・音楽	1日	6名
ごっこ遊び	14日	78名	アニマルセラピー	1日	5名
読み聞かせ	5日	26名	秋祭り振り返り（発表）	5日	26名
お楽しみ会（一年の振り返り） 卒業生を祝う会	10日	59名			

地域支援センター活動実績状況

1 ヘルパーステーション

【表 1】利用実績

<事業別実績時間>

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期 計	前年度 計
居宅介護事業	115.5	85.0	92.0	100.5	75.0	71.0	539.0	417.5
同行援護	0	3.5	4.0	0	0	0	7.5	2.0
重度訪問事業	0	0	0	0	0	0	0	0
移動支援事業	27.3	49.5	53.5	57.5	63.0	48.5	299.3	218.0
私的契約	0	1.0	0	0	0	0	1.0	4.0
月合計	142.8	139	149.5	158	138	119.5	上総時 間	上総時 間
							846.8	641.5
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下半期 計	前年度 計
居宅介護事業	64.5	70.5	68.5	56	47.5	55.5	362.5	459.5
同行援護	0	0	0	0	0	0	0	15.5
重度訪問事業	0	0	0	0	0	0	0	0
移動支援事業	50.0	57.5	68.5	86	46.5	59.5	368.0	277.0
私的契約	0	0	0	0	0	0	0	0
月合計	114.5	128.0	137.0	142.0	94.0	115.0	下総時 間	下総時 間
							730.5	752.0

<有償運送実績>

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期 計	前年度 計
回数 (回)	19	27	23	27	17	13	126	167
距離 (km)	196.3	240.5	207.3	206.7	150.6	71	1072.4	772.5
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下半期 計	前年度 計
回数 (回)	15	37	36	26	25	29	168	202
距離 (km)	111.7	198.1	134.2	92.9	203.6	170.4	910.9	1259.5

<障害別実績時間>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	前年度計
身体	101.8	88.5	98.5	117.0	102.0	92.0	599.8	557.0
知的	32.0	42.0	42.0	37.0	31.0	22.5	206.5	78.5
児童（身体）	0	0	0	0	0	0	0	0
児童（知的）	0	0	0	0	0	0	0	0
視覚	4.0	3.5	4.0	0	0	0	11.5	6.0
精神	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	29.0	0
月合計	142.8	139	149.5	158.0	138.0	119.5	上総時間	上総時間
							846.8	641.5
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	前年度計
身体	84.5	101.0	112.0	105.0	75.0	98.0	575.5	572.5
知的	24.0	19.0	8.5	19.0	18.0	17.0	105.5	135.0
児童（身体）	0	0	0	0	0	0	0	0
児童（知的）	0	3.5	12.5	16.0	0	0	32.0	0
視覚	0	0	0	0	0	0	0	15.5
精神	6.0	4.5	4.0	2.0	1.0	0	17.5	29.0
月合計	114.5	128.0	137.0	142.0	94.0	115.0	下総時間	下総時間
							730.5	752.0

2 相談室

【表2】令和7年度 計画相談支援実績

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期実績計	今年度実績合計
新規利用契約	児	1	1	2	1	0	1	6	
	者	1	0	1	1	0	1	4	
月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期実績計	
新規利用契約	児	1	0	0	1	1	3	6	12
	者	2	1	1	2	1	2	9	13

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期 実績計
サービス等利 用計画作成	児	1	3	2	4	5	4	19
	者	11	9	7	8	6	6	47
モニタリング 報告書作成	児	1	0	1	4	3	3	12
	者	13	50	20	32	35	24	174
合計		26	62	30	48	49	37	252

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期 実績計	今年度実績 合計
サービス等利 用計画作成	児	1	0	3	2	1	3	10	29
	者	6	6	8	7	5	6	38	85
モニタリング 報告書作成	児	1	3	3	3	5	1	16	28
	者	19	12	22	24	21	26	124	298
合計		27	21	36	36	32	36	188	440

※前年度実績合計件数：383 件

【表3】令和7年度 在宅重症心身障害児者訪問等指導事業実績

実施日		訪問先	件数	訪問者	訪問者	訪問者	訪問者
				医師	PT	OT	相談員
2月	10日	自宅	1件	0名	0名	0名	1名
2月	12日	中沼コス モス学園	1件	0名	1名	1名	0名
2月	12日	自宅	1件	0名	0名	0名	1名
合計			3件	0名	1名	1名	2名
派遣日数			3日				
延べ派遣人数			4名				

3 地域活動支援センター事業

【表 4】市町村別登録者数（令和 8 年 3 月末）

南足柄市	42 名
中井町	6 名
大井町	10 名
松田町	5 名
山北町	9 名
開成町	33 名
総計	105 名

【表 5】利用者の区分（成人等、児童）

成人等	身体	4 名
	知的	21 名
	精神	73 名
	難病	1 名
児童		6 名
総計		105 名

【表 6】新規登録者数の推移

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
成人	1 名	3 名	0 名	1 名	0 名	0 名	
児童	0 名	1 名	1 名	0 名	0 名	0 名	
合計	1 名	4 名	1 名	1 名	0 名	0 名	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	今年度
成人	0 名	1 名	2 名	0 名	0 名	0 名	8 名
児童	0 名	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名	3 名
合計	0 名	2 名	2 名	0 名	0 名	0 名	11 名

【表 7】各月の開所日数、延べ利用者、登録者

	開所日数	登録者	延べ利用者（内、児童）	1 日あたり利用人数
4 月	21 日	100 名	145 名（18 名）	6.9 名
5 月	20 日	102 名	154 名（20 名）	7.7 名
6 月	21 日	103 名	181 名（26 名）	8.6 名
7 月	22 日	104 名	161 名（28 名）	7.3 名
8 月	20 日	103 名	146 名（17 名）	7.3 名
9 月	21 日	103 名	155 名（22 名）	7.4 名
10 月	23 日	103 名	173 名（27 名）	7.5 名

11月	18日	105名	135名(23名)	7.5名
12月	20日	106名	150名(20名)	7.5名
1月	19日	106名	121名(17名)	6.4名
2月	18日	105名	108名(19名)	6.0名
3月	21日	105名	153名(33名)	7.3名

【表8】関係機関・事業所との連携

会議名（参加形態）	回数
委託相談支援事業所との連絡会（オンライン）	5回
精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム協議会	4回
足柄上地区自立支援協議会 就労支援部会（Zoomコア会議）	1回
足柄上地区自立支援協議会 権利擁護部会	4回
開成町社会福祉協議会 障がい児者ネットワーク会議（対面）	1回
県西地区障害者文化事業 実行委員会	6回
障害者等地域活動支援センター事業連絡会（足柄上地区行政との連絡会）	1回

4 くまさん教室

【表9】

令和7年度「くまさん教室」利用者実績数

月（前期）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
開所日数	20日	19日	20日	21日	18日	19日	117日
さくらんぼ組児童数	96名	77名	92名	107名	105名	81名	558名
みかん組児童数	23名	29名	22名	18名	20名	19名	131名
延べ利用者数	119名	106名	114名	125名	125名	100名	689名

月（後期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21日	16日	19日	18日	16日	18日	108日
さくらんぼ組児童数	107名	91名	116名	113名	115名	143名	685名
みかん組児童数	24名	16名	24名	18名	15名	18名	115名
延べ利用者数	131名	107名	140名	131名	130名	161名	800名

【表10】 <くまさん教室令和7年度行事参加者実績>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
げんきくらぶ	23名(4回)	30名(7回)	30名(6回)	22名(4回)	30名(5回)	25名(6回)	160名
おんぶくらぶ	29名(5回)	16名(4回)	23名(5回)	25名(4回)	21名(4回)	21名(4回)	135名
りんごくらぶ	12名(2回)	10名(2回)	11名(2回)	10名(2回)	20名(3回)	10名(2回)	73名
参観日	6名(1回)母 1	23名(5回)父1・母7・ 妹3	10名(2回)母 2	27名(4回)母8・ 父2・妹5	6名(1回)母 5・父1	6名(1回)母1・ 妹1	78名
保護者会	13名(2回)母 14・妹2・弟1	なし	なし	なし	なし	10名(2回)母9・ 妹2	23名
ボランティア	なし	5名(1回)	7名(1回)	5名(1回)	5名(1回)	5名(1回)	27名
避難訓練	10名(2回)	13名(2回)	12名(2回)	13名(2回)	12名(2回)	8名(2回)	68名
延べ人数	93名	97名	93名	102名	94名	85名	564名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
げんきくらぶ	20名(4回)	30名(6回)	36名(6回)	28名(4回)	21名(3回)	26名(4回)	161名
おんぶくらぶ	19名(4回)	35名(5回)	35名(5回)	26名(5回)	25名(4回)	31名(4回)	171名
りんごくらぶ	12名(2回)	15名(2回)	10名(2回)	15名(2回)	16名(2回)	6名(1回)	74名
参観日	なし	8名(1回)母6・妹1	46名(6回)母 17・妹3・姉1	9名(2回)母3	なし	なし	63名
保護者会	なし	なし	なし	なし	なし	14名(2回)母12	14名
ボランティア	8名(1回)	9名(1回)	5名(1回)	9名(1回)	4名(1回)		35名
避難訓練	15名(3回)	14名(2回)	9名(2回)	11名(2回)	14名(2回)	15名(2回)	78名
延べ人数	74名	111名	141名	98名	80名	92名	596名